

## 2015 年度第 4 回執行理事会議事録

期 日：2015 年 10 月 10 日（土）13:00-17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：井龍会長 山本副会長 渡部副会長 齋藤常務理事 海野 坂口 杉田 竹内 中澤  
平田 廣木 山路

（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：ウォリス 緒方 保柳 星 松田

定足数（12、委任状含む）に対し、出席者 12 名、委任状 5 名、合計 17 名の出席。

### I 審議事項

#### 1. 県の石の選考の進め方に関して（井龍）

選定委員会より提出された候補リストを基本にして、執行理事会は作業部会（辻森、重田両委員）を立ち上げ、一次原案を作成することとし、川端委員長の了解を得た。執行理事会は、11 月の執行理事会で一次原案の内容を検討する。

#### 2. 「フィールドマスター認定制度」検討 WG（案）について（坂口）

フィールド教育の促進のためにフィールドマスター認定制度を検討する WG を立ち上げる。メンバーとして企業、大学、地質調査研修関係者、などから構成し、メンバーは執行理事会のメール審議で選出する。WG では企業や学生などのニーズ調査、具体的事業プランなどを検討する。

#### 3. 次期 Island Arc 編集委員長の交代（海野）

言編集委員長の任期満了（2015/12 末）につき次期編集長候補として田村芳彦会員（JAMSTEC）、武藤鉄司会員（長崎大学）が推薦され、了承された。

#### 4. 日本学術会議と防災減災・災害復興に関連する学会の連携推進のための「防災学術連携体」の創設（案）に対する対応

日本地質学会として加入する方向で、常務理事が担当者の人選と情報収集を図る。

#### 5. 二重投稿および不適切なオーサーシップに関する記述を投稿規定に反映する件（山路）

研究不正防止のためにオーサーシップに関する改正規則の原案が示された。一部文言修正のうえ法務委員会に諮ることとした。

#### 6. 来年度東京・桜上水大会の巡検案内書の発行方法について（山路）

編集委員会から来年度の巡検案内書の発行方法について提案があり、下記のようにすることとした。

1) 来年度も基本的に長野大会のやり方を踏襲する。冊子体は白黒印刷とし、JST に掲載する PDF 化の際のカラー図版への差し替えを可能とし、その際の差し替え費用は学会負担とする。

2) 東京大会 LOC から従来通り CD での発行を希望する意見が寄せられているが、他の会員からも意見を集め、12 月の理事会で議論する。

3) 長野大会と同様の措置を今後も続けるとなれば、2017 年以降のために「巡検案内」という原稿のカテゴリーを新設する方向で検討する。

#### 7. ネパール地質学会からの学術交流協定締結希望の申し入れに関して（佐藤比呂志会員経由）、会長から前向きに進めて行きたいとの提案があり、了承された。

## 8. 連合から、Island Arc に JpGU のロゴを入れて欲しいとの要請について

国際化対応として、Wiley の Island Arc サイトに JpGU のロゴを掲載してほしいとの要請があり、承諾することとし、その旨を Wiley に伝える。同時に連合のサイトにも Island Arc を宣伝してもらう。

## II 報告事項

### 1. 全体的報告

- 1) 大韓地質学会の年会（日程：10/28-30、済州島）に会長の出席要請があり、出席することとなった。なお、要請により日本の地質学の研究動向を紹介することとなった。これに関し、会長は各専門部会に、研究動向の PPT ファイルの提供を要請し、部会がこれに応じた。
- 2) 原子力学会より「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会の開催ご提案」があり、連絡会への参画要請があった。地質学会としては、現時点では学術団体としての適切な貢献をするべきとして、今回の参画は見送った。
- 3) 地学オリンピック三重大会実行委員会より、寄付に対するお礼と現時点での三重大会の概要、予算案等について報告があった。

### 4) 2015 Arthur Holmes Meeting 参加報告（井龍）

日本地質学会代表として会長並びにウォリス理事が招待され、津波シンポジウムおよび巡検に出席し歓迎された。日本側の研究発表も活況で盛会であった。また、日本大使館においてレセプションが開かれた。

### 5) 地球惑星連合学協会長会議の報告（井龍）

各学協会に所属する会員が連合会員にもなっている場合は、二重権限となるので学協会の権限の取り扱いが議論された。所属学会を通じて AGU・EGU との共催を進める。PEPS は順調に発行中と報告された。

### 6) 2016 年度各賞の推薦対象について

121 巻 7, 8 月号（2015 年 7, 8 月号）に掲載された「巡検案内書」も「論文」と解釈されるので授賞対象として対象リストに掲載した（現在推薦募集中。11 月 30 日締切）。

### 2. 運営財政部会：総務委員会（緒方）

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

- 1) 「ジオハザードに対処できる人材の育成：防災国際ネットワーク構築に向けた国内連携のあり方」ワークショップ，主催：日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGS 分科会，11 月 20 日開催の後援依頼を承諾→News 誌，geo-flash，HP に掲載。
- 2) 強靱で安全・安心な都市を支える地質地盤—あなたの足元は大丈夫？—  
主催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会 土木工学・建築学委員会学際連携分科会，1 月 23 日開催の後援依頼を承諾→News 誌，geo-flash，HP に掲載。
- 3) 地下水学会主催セミナー：東京電力福島第一原子力発電所事故による周辺水環境への影響—現状と課題—，11 月 24 日開催の後援依頼を承諾→News 誌，geo-flash，HP に掲載。

<その他>

- 1) 山田科学財団 2016 年度研究援助候補者募集（募集期間 10/1-2016/2/26，学会締切 1/29）→News 誌，geo-flash，HP に掲載。本会からは 3 件まで推薦できる。
- 2) 新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館の企画展示「殻が作る世界」（7/11-8/28 後

援)の終了報告

<会員>

1) 今月の入会者 (3名)

正会員 (1名) : 小林淳一

正 (学部割) 会員 (2名) : 松井久美子, 片桐貴浩

2) 今月の退会者 (正会員 2名)

正 : 渋谷小春, 亀山 瞬

3) 今月の逝去者 (3名)

名誉 : 下山俊夫 (2015/7/19), 小島郁夫 (2015/9/19)

正 : 山中 博 (2015/1/26)

3) 2015年9月末日会員数

賛助 : 28, 名誉 : 59, 正会員 : 3787 (正会員 : 3579, 院割会員 : 191, 学部割会員 : 17)

合計 3874 (昨年比 -43)

<会計>

・年会の収支の最終的な数字はまだ出ていないが, 赤字になることはなさそうである。

工学部施設使用料は学内職員使用割引が適用され, 17万円弱であった。

3. 広報部会 : 広報委員会 (坂口・松田)

(1) 第7回惑星地球フォトコンテストについて

・まもなくウェブサイトを開クし, 応募受付を開始する。

応募期間 : 10月下旬~2016年2月22日 (月)。

・賞の設定は昨年通り

最優秀賞 1点 : 賞金 5万円, 優秀賞 2点 : 賞金 2万円, ジオパーク賞 1点 : 賞金 2万円,

ジオ鉄賞 1点 : 賞金 1万円, スマホ賞 1点 : 賞金 5千円, 入選数点 : 賞金 5千円,

佳作数点 : 賞金なし

・下記のとおり後援および協賛を依頼し承諾された。( ) は後援および協賛金。

後援 : 日本ジオパークネットワーク (3万円)・深田研ジオ鉄普及委員会 (1万円)

協賛 : 株式会社 ウィンディーネットワーク (5万円)

4. 学術研究部会 (ウォリス・竹内・中澤)

(1) 行事委員会 (竹内)

1) 長野大会について

・参加者数 900余名 無事終了。

・台風のため遅れた発表者は講演中止扱いとなった。

・ハイライト制度について意見収集する。

・業者が新しかったため不慣れな点があった。

・発表時間の遅延防止の新工夫が浸透していなかった。

・若手会員のための企業研究サポートは盛況だった。参加企業も 12社と多かった。

2) 2016JpGU 地質学会主催・共催セッションの承認について

各専門部会から 11 のセッション提案があり, 主催共催を承認したと報告された。

(2) 国際交流委員会 (ウォリス)

・2015 Arthur Holmes Meeting (UK) 参加報告 (井龍)

(3) JIS, 標準担当 (中澤)

地質学雑誌掲載地層名の過去5年分からデータベース化を進めている。

(4) その他

5. 編集出版部会 (山路・海野・保柳)

(1) 地質学雑誌編集委員会 (山路編集委員長)

1) 編集状況報告 (9月30日現在)

・2015年投稿論文 総数54編 [総説4 (和文2・英文2)・論説27 (和文25, 英文2)・報告8 (和文6, 英文2)・ノート2 (和文2)・口絵5 (和文4・英文1)・巡検案内8] (昨年比 -3)

査読中: 21 受理済み: 6

・121巻9月号: 通常号 (論説2, 報告1). 38ページ, 発送済み

・121巻10月号: 通常原稿2 (論説2), 巡検案内書1 (1班) 掲載. 校正中

(2) アイランドアーク編集委員会 (海野)

1) 編集状況

Vol.24 Issue3 (2015年9月): 一般原稿6編 (うちPictorial 1編), Island Arc Award 2015 recommendation (98ページ) 発行済み.

2015年度は457pになる.

2) オンライン投稿の状況

過去半年 (2015.4.1~2015.9.31) の投稿数49件. うち新規投稿43件.

3) その他

・次期編集委員長候補者の承認 (→審議事項へ)

・新規の坂口特集号について (世話人: Arito Sakaguchi ほか) は, 前回執行理事会での指摘を受けて特集号タイトルを下記の様に変更する. 木村教授の退職記念である旨は Introduction の趣旨説明に記す.

(変更前) 「The mechanics and evolution of megathrust within accretionary complex (Special issue to honor Professor Gaku Kimura's contributions on Tectonics and structural geology)」

(変更後) 「The mechanics and evolution of megathrusts within accretionary complexes」

(3) 企画出版委員会 (保柳)

1) 長瀬探検マップの原稿が再々提出され, 委員会で確認し微修正のうえ出版予定.

6. 社会貢献部会 (平田・杉田・廣木)

1) 秋の地質調査研修は6名の参加申し込みがあり, 予定通り実施予定. 産総研の共催を得た.

2) JpGUの男女共同参画委員会とキャリア支援委員会が統合され, ダイバーシティ推進委員会が発足した. これに伴い, 地質学会からの委員を1名とし, これまで男女共同参画委員であった宮下由加里会員に依頼した.

7. ジオパーク支援委員会 (平田)

(1) 世界ジオパーク審査結果

・新規認定審査: アポイ岳ジオパーク (認定), 伊豆半島ジオパーク (保留)

・再認定審査: 室戸ジオパーク (再認定)

8. 地学オリンピック支援委員会（平田）

- ・ブラジル大会報告及び三重大会準備状況
- ・来年の地震火山サマースクールは南紀白浜ジオパークを会場として準備中

9. 地質技術者教育委員会（山本）

夜間小集会実施。若手会員のケア，中期ビジョンに関連して，フィールドマスター認定制度について意見交換した。天野会員から JABEE 委員の交代要請があり，後任を検討中。

10. 中期ビジョン委員会（坂口）

理事会の意見を待って確定するが，現在まで特に意見は寄せられてない。

以上

2015年11月28日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長（代表理事）井龍康文

署名人 執行理事 齋藤 眞